

## エペソ人への手紙5章13-14節 「光の子どもとして歩む」

### 1A 闇から救われた人々

### 2A すべてを明るみにする光

#### 1B 裁きのため

#### 2B 救いのため

### 3A 光といのち

#### 1B 光にある新しいいのち

#### 2B 復活にあるキリストの光

#### 3B 暗闇のわざを明らかにする光

## 本文

エペソ人への手紙5章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、エペソ4章まで来ました。午後に5章1節から20節まで一節ずつ見ていきたいと思いますが、今朝は、13-14節を中心に学んでいきます。「<sup>13</sup>しかし、すべてのものは光によって明るみに引き出され、明らかにされます。<sup>14</sup>明らかにされるものはみな光だからです。それで、こう言われています。「眠っている人よ、起きよ。死者の中から起き上がれ。そうすれば、キリストがあなたを照らされる。」

私たちは前回、エペソの町というのが、大きな富んだ町でありながら、偶像礼拝と汚れた行いに満ちた町でもあることを学びました。5章においても、パウロはこのことを取り扱っています。それを、闇の行いとして語っていて、口にするのも恥ずかしいと言っています。しかし、あなたがたは、そのように生きるようには召されていない。むしろ、光の子どもとなったのであり、光の中で歩みなさいと勧めています。「5:9 あらゆる善意と正義と真実のうちに、光は実を結ぶのです。」そして、光とは、闇も明るみに出す働きもあります。自分が光の中だけでなく、他の人々も光の中に導く働きがあります。今朝は、このことに注目してみたいと思います。

### 1A 闇から救われた人々

ところで、私たちにとって、自分たちの命を支えている根本的なものは何でしょうか？このからだを支えている、根本的なものです。食べ物でしょうか？食べ物と水であれば、どちらでしょうか？断食しても、水さえ飲んでいれば長く生き延びることができます。その食べ物にさえ、水分がありますね。水は、生きていくのに根本的なものであることが分かります。

しかし、それと同じぐらい、私たちを生かすものがあります。光ですね。天地創造の時、初めは、「創世 1:2 地は茫漠として何もなく、闇が大水の面の上であり、神の霊がその水の面を動いていた。」とあります。闇が大水の面にありました。そこに、「1:3 神は仰せられた。「光、あれ。」すると

光があった。」とあります。光を神が初めに造られました。それで一日が始まりました。この後で、あらゆる生き物が造られて行きます。植物が育ち、動物が生まれます。そして、私たち、神と似せて造られた人が、造られます。

一度、妻と共にアメリカの東海岸に行って、鍾乳洞に入ったことがあります。洞窟の中で、ガイドさんが、照明を消しました。これまで見たこともない闇でした。闇が手にまとわりつく、というような表現が聖書にあったでしょうか、生まれてこんな暗いものは目にしたことがありません。夜であっても、何らかの光がわずかに入っていたのだということに気づきました。ガイドの方は、この状態で少し長いこといたら、人は、発狂してしまうと言っていました。何も見えない恐ろしさです。光が、人を生かし、それが希望であり、希望は空気のように、なくてはならないものだと分かりました。

興味深いのは、神の救いのご計画も、闇と光の対比によって展開していることです。旧約聖書では、神が怒りを地上に下される時は、その悪ゆえに罰する時に天を暗くすると言われました。「イザ 13:10-11 天の星、天のオリオン座はその光を放たず、太陽は日の出から暗く、月もその光を放たない。11 わたしは、世界をその悪のゆえに罰し、悪しき者をその咎のゆえに罰する。不遜な者の誇りをくじき、横暴な者の高ぶりを低くする。」そこで思い出すのが、イエス様の十字架です。真昼なのに、天が暗くなりました。これはまさに、御子が全世界の罪をご自身に負われた瞬間でした。神の罪に対する御怒りが、私たちの身代わりにキリストが負われていた徴でした。アモスもこう預言しています。「アモ 8:9-10a その日には、——【神】である主のことば——わたしは真昼に太陽を沈ませ、白昼に地を暗くする。あなたがたの祭りを喪に変え、あなたがたの歌をすべて哀歌に変える。」祭りが喪に変えられたとありますが、主が十字架に付けられた時、過越の祭りでした。

ですから、主がよみがえられた時は、それは、いのちの時であり、光の時でありました。夜明けの時に、女たちが墓に行ったら、主のからだがないとありませんでした。そして、復活の主を見ました。マグダラのマリアも見ました。ついに、エマオの途上の二人の弟子も見て、ペテロも見ていました。そして、ついに弟子たちの真ん中に現れたのです。

その光が与えられて、聖霊が与えられて教会が生まれ、教会が地上から取り除かれると、再び、患難によって世界が暗闇になります。けれども、王の王、主の主であるキリストが来られて、地上を照らし、世界が光の中に再び入れられるのです。千年間の統治の後に、新天新地を神が造られます。そこには、夜がないと書かれています(黙示 21:25)。なぜなら、神ご自身と子羊が、都の光だからだ、と書いてあります(21:23)。

イエスご自身が、わたしは光であると言われましたね。「ヨハ 8:12 わたしは世の光です。わたしに従う者は、決して闇の中を歩むことがなく、いのちの光を持ちます。」主が光であり、光の中を歩むと、いのちを持ちます。パウロは、復活のイエスに出会って、そこで語られた言葉を、ヘロデ・ア

グリッパの前で証言した時に語りました。「使 26:18 それは彼らの目を開いて、闇から光に、サタンの支配から神に立ち返らせ、こうしてわたしを信じる信仰によって、彼らが罪の赦しを得て、聖なるものとされた人々とともに相続にあずかるためである。」ペテロも語っています、第一の手紙です。「2:9 しかし、あなたがたは選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神のものとされた民です。それは、あなたがたを闇の中から、ご自分の驚くべき光の中に召してくださった方の栄誉を、あなたがたが告げ知らせるためです。」このように、闇から光に移された者たちです。

## 2A すべてを明るみにする光

そして 13 節に、「しかし、すべてのものは光によって明るみに引き出され、明らかにされます。」とあります。光が来れば、闇は隠れることはできません。すべてが明るみに出されて、明らかにされます。エペソの人々が行っている、口に出すのも恥ずかしい様々な行いは、後の日には、すべて明らかにされる、ということを行っています。

## 1B 裁きのため

前回、情欲は私たちを欺くということを読みました。一般に明らかにされているのは、人間的に言うならば「きれいごと」です。罪を世は、なるべく美しく見せます。私たちは、北朝鮮の報道があまりにも滑稽で、見え透いた嘘をついていることを知っていますが、罪については、日本を含めて、世界のあらゆる報道が全く同じことをしていることを知らないといけません。しかし、主はそうしたこともすべて明らかにされます。私たちの信じている福音は、あからさまな罪もさることながら、それ以上に、隠れたことを明るみに出し、神が公正に裁かれるところに現れます。「ロマ 2:16 私の福音によれば、神のさばきは、神がキリスト・イエスによって、人々の隠された事柄をさばかれるその日に行われるのです。」

## 2B 救いのため

しかし、ここで私たちには、すごい神のお働きを見ます。エペソ 5 章 7 節を見てください、「あなたがたは以前は闇でしたが、今は、主によって光となりました。」闇の中にいる者たちに、光であるキリストが来られました。そうすると、その闇が明らかにされて裁かれ、火の中で焼き付くされるのではなく、むしろその者たち自身が光になる、と、主は言われるのです。自らが真理に近づき、罪のあるそのままの自分を差し出すならば、それで裁かれるのではなく、むしろ救われるのです。闇であった者が、光となるのです。

イエス様が、ニコデモに語られていた時のことを思い出してください。そこで、光と闇についてイエス様が語っておられます。「ヨハネ 3:18-21 御子を信じる者はさばかれぬ。信じない者はすでにさばかれています。神のひとり子の名を信じなかったからである。19 そのさばきとは、光が世に来ているのに、自分の行いが悪いために、人々が光よりも闇を愛したことである。20 悪を行う者はみな、光を憎み、その行いが明るみに出されることを恐れて、光の方に来ない。21 しかし、真理を行

う者は、その行いが神にあってなされたことが明らかになるように、光の方に来る。」光に照らされると、すべての闇のわざが明らかにされます。そのため、闇のわざを愛する者たちは、光の方に来ないで闇の中に留まります。しかし、将来、主が来られたら、すべてのことが明らかにされて、それで裁かれます。

しかし、真理を行う者は、光の方に来ると、主は言われるのです。光が照らされたら、それは自分のこれまでの闇の行いが明らかにされることです。しかし、それで裁かれるのではありません。いや、むしろ、すべての行いが明らかにされても、その罪がすべて清められ、自分自身がキリストの光の中で照り輝くようになるのです。これが、神の救いのみわざです。自分の闇が明らかにされるのを恐れる者は、ただ隠れるだけで、後で明らかにされて裁かれます。けれども、自分の闇があっても、主のもとに行く人は、その闇は光の中で消え去り、自分自身が光となるのです。驚くべきわざです。ヨハネは、第一の手紙でこのことを詳しく話しています。「1:7 もし私たちが、神が光の中におられるように、光の中を歩んでいるなら、互いに交わりを持ち、御子イエスの血がすべての罪から私たちをきよめてくださいます。」御子イエスの血が、すべての罪から私たちをきよめてくださいます。そのために、私たちは裁かれずに、むしろ大いなる恵みを受けるのです。

この逆説的なことを、パリサイ人の祈りと、取税人の祈りの中でも観察することができます。罪人が、神殿の中に入ることもせず、目を天に向けることもしませんでした。「ルカ 18:13 神様、罪人の私をあわれんでください。」そうすると、なんと彼は義人として認められたのです。「18:14 あなたがたに言いますが、義と認められて家に帰ったのは、あのパリサイ人ではなく、この人です。」主は、私たち罪人を憐れんでくださるだけでなく、へりくだる者をすぐに義と認めるという、恵みのわざを行ってくださるのです。

### 3A 光といのち

そこで 14 節を見ましょう。「<sup>14a</sup> 明らかにされるものはみな光だからです。」これまで話してきましたように、明かにされると、それ自体を神は光にしてくさるのです。

#### 1B 光にある新しいいのち

「<sup>14b</sup> それで、こう言われています。「眠っている人よ、起きよ。死者の中から起き上がれ。そうすれば、キリストがあなたを照らされる。」眠っているというのと、死んでいるというのを、同じような意味で、ここは語っています。これは、イザヤ 26 章 19 節から来た言葉ではないかと思われませんが、パウロは、そのまま引用しているのではなく、そこから派生した、光といのちの歌を取り上げています。先ほど説明しましたように、神が光を造られて、その光の中でいのちが与えられます。

#### 2B 復活にあるキリストの光

ところで、パウロが引用しているのは、エペソの教会など、初代教会が使っていた賛美の歌では

ないか？とされています。特に、バプテスマを人々が受ける時に、歌われたのではないかとされています。眠っている、あるいは霊的に死んでいる人が、起き上がる、つまり、よみがえります。そこで、キリストが自分を光で照らして下さるのです。

ちょうど、これは、夜明けに主がよみがえられた、その復活のいのちと光が、キリストを信じて受け入れた者たちに与えられるということですね。主のいのちのところに、光があるというのは、他の聖書の箇所にも数多くあります。「詩 36:9 いのちの泉はあなたとともにあり、あなたの光のうちに私たちは光を見るからです。」ヨハネがイエス様のことを証言して、こう言っています。「ヨハ 1:4 この方にはいのちがあった。このいのちは人の光であった。」

### 3B 暗闇のわざを明らかにする光

そして、キリストにある、新しいいのちが与えられ、光によって輝くようになると、今度は、他の人々に対して光となります。11 節をごらんください。「**実を結ばない暗闇のわざに加わらず、むしろ、それを明るみに出さなさい。**」明るみに出すというと、何か、悪事を暴露する、暴くように聞こえると思います。結果的に、人々が自分のうちにあるキリストの光に、自分たちの悪いことが明らかにされる、ということはあると思います。そういった、神の裁きとしての光で明らかにする、ということもあると思います。

けれども、それ以上に、人々を救いに導く働きであることを覚えてください。自分自身が、闇であったのに、キリストの方に来て、光となりました。明るみに出すというのは、同じようにして、キリストのところに来て、その人たちも光になるということです。光と闇の確執であるようにして、闇を暴く戦いをしているのではなく、もうすでに勝利しておられる主が、ご自分の前にへりくだる者たちを光にしていられる、その救いの働きに私たちは関わっています。主は、弟子たちに言われました。「**マタ 5:14-16** あなたがたは世の光です。山の上にある町は隠れることができません。15 また、明かりをともして升の下に置いたりしません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいるすべての人を照らします。16 このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせなさい。人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようになるためです。」

主の光によって、自分のうちに闇があることに気づかれた方はいますか？どうか、主の下に来てください。そうすれば、主がその闇を光としてくださいます！そして、すでに光のうちに歩んでいる人々は、闇と争わなくていいです。光を明らかにしていけば、人々は神をあがめるようになります。大事なことは隠さないことです、明かりは輝かせるためにあります。